

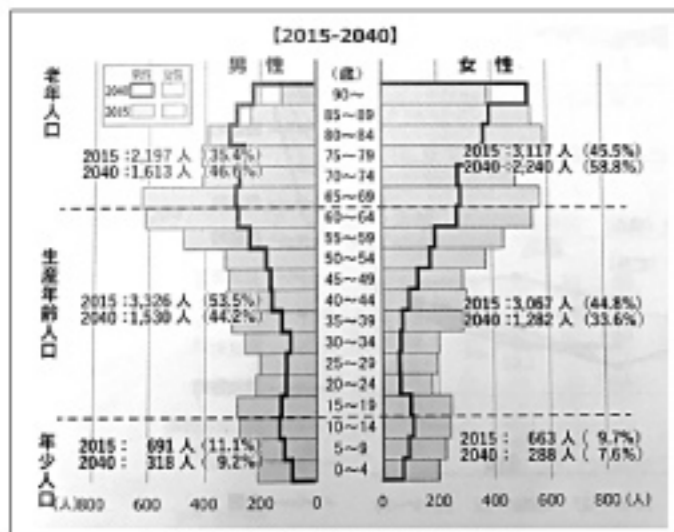
# 質問 集落の課題解決のための支援策は



高橋 恵美子 議員

地域づくり推進課長

自助、互助、共助、公助のバランスのとれた町づくりをめざす



出典:1975~2015年:2015年国勢調査(実数)  
2020~2065年国立社会保障人口問題研究所(平成30年3月推計)

**質問** 現在の奥出雲町での交通サポート券の発券状況等、現状の様子を伺う。  
福祉事務所長 交通サポート利用券の交付対象者は、いずれも70歳以上の方で、自家用車をお持ちでない世帯の方、非課税世帯の昼間同居となる方、運転する方の入院等が理由で一時的に交通手段がな

**質問** 電動シニアカーの助成制度について伺う。  
町長 今後町内でシニアカーの利用状況を調査し、実態把握の上、必要性を見極めたい。高齢者の移動支援は、地域における高齢者の暮らしを守る上で大変重要な施策である。引き続

**その他の質問**  
出産一時金の増額等について。  
きサポート事業を実践しながら、町全体の持続可能なサポート体制の構築に向けて地元バス会社、タクシー事業者、小さな拠点づくりで取り組んでいただきたい。

# 質問 学校再編は通学の負担軽減が必須だ



内田 雅人 議員

町長 改善できるよう検討し要望に応えたい



スクールバスの導入が必要ではないか児童と保護者の負担を軽くしてほしい

**質問** 学校再編の校区別協議で共通しているのは通学への不安だ。  
スクールバスの方が安全性が高く、時間もかからないと認識しているなら、スクールバスにしない理由は何か。費用ならば運行経費の差はどれほどか。

町長 委託の場合1台の運行に年間約700万円が見込まれ、すべてスクールバスで運用しようと思えば、20台の専用車両と運転手の確保が必須となる。路線バス利用の場合には補充に8台必要なので、12台分の車両購入費と運行経費の差が出るのが理由だ。奥出雲交通の路

線を進める限り活用したい。  
**質問** 学校再編の先進地視察で「再編の入り口は児童と保護者の負担を軽くすること。安全を保障すること」と学んだ。  
町長 徒歩の基準は目安であり、状況を踏まえた対応になると考えている。様々な可能性を含めて改善できるよう検討し、保護者の要望に応えるよう進めていく。

教育長 基準によって画一的な線引きはあってはならない。年間を見通して子供たちが安全に登校できるように提案し、要望に応えるよう検討を重ねる。  
**デジタル田園都市国家構想に早いアクションを**  
質問 政府が掲げるデジタル田園都市国家構想は、地方と都市の差を縮めていくこと。奥出雲町が進めたいスマート農業や通信インフラの整備、交通弱者への支援となる自動運転、遠隔の医療、教育、防災など、早期実現をめざし、早い活用を望む。  
町長 産業と暮らしを支えるインフラとしての地域情報化を推進していくため、今後の政府の動向を

**その他の質問**  
耐震の安全性が低い町民体育館と横田コミュニティセンターの対応について。  
要望 未来を見据える目は常に光らせて、こういった奥出雲町に必要な未来構想には、敏感に反応して動いて欲しい。  
注視しながら、スピード感を持って町政運営にあたる。